

2021 年度事業報告書

1. 概況

新型コロナウイルス感染症は、収まる気配を見せず、当法人においても大きな影響を受けている。財団新居浜病院では患者様ならびに職員が、また、東城看護学校でも学生が感染したが、所管保健所をはじめとする関係先のご支援を受け、感染拡大防止に努めてきた。今後も継続して適切に対応していく所存である。

2. 2021 年度事業計画に基づく事業活動の状況

当期における事業活動の状況は、概ね次のとおりである。

(1) 精神衛生の研究

①患者の治療・社会復帰に関する調査研究

医師をはじめ、看護師・精神保健福祉士・臨床心理士が日常業務の中で、継続的に調査研究を実施している。

②精神衛生の統計ならびに一般財団法人新居浜精神衛生研究所紀要の発行

当法人既発行の紀要や、外部の紀要等の事例をもとに、引き続き発行に向けて準備を続けている。

③入院患者の考察に基づく院内看護研究発表会の開催

院内の研究発表会や勉強会等による研修・研究を通して、医療に関する研究考察・質的向上に努めた。また、院外の学会や研修会等に関しては、新型コロナウイルス感染症対策を考慮しながら、可能な限り参加するよう努めた。

財団新居浜病院では、9 件のテーマについて看護部院内研究発表会を開催し、豊岡台病院では、5 回の勉強会を実施した。また、院内外の研修会等への参加は、財団新居浜病院では 15 回、豊岡台病院では 5 回の実績であった。

看護職員以外では、医師をはじめ、薬剤師等のコメディカル、その他の職員も院内外の研修会等に積極的に参加した。(財団新居浜病院 49 回、豊岡台病院 30 回)

(2) 精神病の予防に関する普及及び宣伝

医師、看護師をはじめとして、薬剤師・精神保健福祉士・臨床心理士・作業療法士・理学療法士・管理栄養士・臨床検査技師等は、院外の研究会・研修会・学会・勉強会・交流会等へ積極的に参加し、最新の医学研究の情報収集に努めるとともに、外部の関係機関や関係者と連携して、講演会・座談会・健康相談会等の開催及び講師の派遣を行い、患者家族及び一般の方々に、精神疾患に関する情報の提供や情報交換を行い、地域における精神疾患の予防に関する普及、宣伝に努めた。

(3) 附属病院の経営

財団新居浜病院及び豊岡台病院の経営を行い、地域社会の要請する医療の提供に努めている。諸部門の強化充実を図るため、医療従事者の確保に努めているが、職員の採用には両院ともに引き続き苦慮している。

① 財団新居浜病院

2021年度の医業収入は、入院部門及び外来部門において、当初の予算患者数を達成することができなかった。特に、入院部門は大幅な未達となっている。外来部門は、7月ごろより改善傾向に転じたが、入院部門の改善は見られなかった。

両部門の患者数の減少要因としては、4月中旬から6月下旬にかけて、新型コロナウイルス感染症の第4波による院内クラスター（入院患者39名、職員16名の合計55名が感染）が発生したことが挙げられる。そのため、その後の新規入院患者が少なくなり、当初の予算患者数の確保が困難であった。

外来患者についても、その期間は一部診療等を制限したこともあり減少した。その後、院内クラスターが終息した7月頃より、訪問・デイケア等が再開し、徐々に回復傾向に向かった。

院内感染後の病院対策として、①新型コロナウイルス抗原検査 ②新型コロナウイルス感染症に対応すべくPCR検査機器等の導入 ③「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」を実践に即した内容に更新（保健所の監修あり） ④患者・職員へのワクチン接種の促進 等を講じた。

併せて、以下の内容で行政からの財政的支援が、収入減に対し大きな補填となった。

【行政機関からの財政的支援（補助金申請）】

新型コロナウイルス感染症患者入院受入協力金	11,700,000円
新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金（病棟確保料）	83,491,000円
愛媛県医療従事者応援手当補助金	4,172,000円
新型コロナウイルス感染症医療従事者宿泊助成補助金	4,478,000円
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止継続支援補助金	100,000円
合計	103,941,000円

【入院】

(当初予算)	入院 1 日平均患者数	363 人	収 入	1,854,902 千円
(実 績)	〃	331 人	〃	1,690,667 千円
(前年度実績)	〃	360 人	〃	1,850,354 千円

【外来（訪問等含む）】

(当初予算)	外来 1 日平均患者数	90 人	収 入	277,451 千円
(実 績)	〃	74 人	〃	227,691 千円
(前年度実績)	〃	82 人	〃	276,763 千円

医業収入全体で、前年度実績と比べ 208,759 千円の減収、当初予算には 213,995 千円達しなかった。

② 豊岡台病院

昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい感染者数は高止まり、より強固な感染対策を当院でも継続する 1 年となった。

主な感染対策として、特に外部からのウィルスの持ち込みを阻止することに注力し、熱発者や風邪症状のある患者様の診察は断り、外来と病棟の往来を可能な限り遮断、そして、ワクチン未接種者の受け入れも取りやめた。

諸所の集団感染発生のニュースが飛び込む度に警戒心がより一層高まる中、例年であれば患者数は期首から 8 月にかけて増加して、冬期の落ち込みをカバーしてきたはずが、今期は入院患者数が減少する事態となった。

時期を同じくして内科療養病棟では、体調を崩し入院など長期間の療養を余儀なくされる職員が続出し、病棟を維持する人員数を確保する事が非常に困難となり、難しい病棟運営を続ける中で、入院患者層にも大きな変化が起きた。

近隣の老人施設等において、認知症など軽症の方々も入所可能としたことで、病院に入院される方は施設では対応できないような重症患者の割合が高くなり、そのような患者様は介護度が高く手がかかるうえ、死亡リスクもあり（今年度内科を退院された 22 名のうち 15 名が死亡によるもの）、入院日数が短くなることで、安定的な収益を期待することがますます難しい状況となった。

結果として内科療養病棟では前年度から患者数が年間平均で 7 名減少し、入院収益が 3 千 560 万円減少し、外来収益はワクチン接種を実施したことが功を奏し 39 万円減にとどまった。

精神科病棟においては、入院収益は 950 万円減となったが、外来収益が 550 万円増となり、精神科外来では結果を残すことができた。うち、訪問看護は 76 万円増、デイケアは 170 万円増であった。一方で、育休で作業療法士 1 名が休んでいた作業療法科は 26 万円減、理学療法士 1 名が退職した理学療法科では 143 万円減となった。

(4) 看護専門学校の経営

2013年度より3年課程に変更し、第7期生の卒業生を社会に送り出した。

看護師資格の国家試験については、30名中25名の合格（合格率83.3%）であり、昨年より合格率は上昇したが、全国平均には及ばない。今後とも試験対策の見直しと強化が課題である。

新型コロナウイルス感染症対策に関しては、基本的に県の方針に沿い、「基本的感染対策の徹底と環境整備」、「新しい知識の習得（学生指導）」、「遠隔授業の環境」、「外部関係者への情報発信と協力依頼」の4本柱で行った。学生の中から2名の感染者が出たが、幸い学校内にウィルスが持ち込まれることはなく、授業や実習に影響はなかった。

学生募集については18名にとどまり定員には及ばなかった。学生から選ばれる学校を目指し引続き全職員一丸となって対策を講じたい。

(5) 精神障害者の診療・治療

財団新居浜病院の入院診療の実績並びに診断の内容は、2021年度末で326名の患者が在院しており、主な疾病別の患者数と平均在院日数は次のとおりである。

病名	人数 (人)	平均在院日数 (日)
統合失調症	210	4,101
躁うつ病	17	923
認知症	70	721
器質性精神障害	16	1,141
アルコール中毒	2	893
覚醒剤中毒	3	3,762
知的障害	4	3,109
発達障害	1	86
精神神経症	3	1,423

全体の疾病のうち、統合失調症が64.4%を占めている。

豊岡台病院における精神科病棟の延入院患者数は31,925人/年（対前年比△1,061人/年）であった。

外来については、年間の延患者数は20,024人/年（対前年比+1,816人/年）で、年間の1日平均患者数は67.9人/日（対前年比+6.4人/日）となった。

このうち、精神科の延外来患者数は、9,485人/年（対前年比+1,020人/年）であった。

(6) 精神障害者の社会復帰の促進

財団新居浜病院、豊岡台病院ともに、医療社会事業科の精神保健福祉士が地域活動の中心的役割を果たしており、看護部ほかの協力を得て、院内外の患者及び家族との関係を密にした活動を行っている。

主な活動としては、懇談会・勉強会等の実施・デイケア新聞の発行・納涼夏祭り・クリスマス会等のレクリエーション活動の実施である。また、関係機関等との連絡会・交流会・学習会に積極的に参加し、コミュニケーションを深めることにより、精神障害者の医療、社会復帰等の支援に努めている。

(7) 居宅介護支援事業

愛媛県の介護保険の指定を受けて、要介護状態または要支援状態にある高齢者及びその介護者の居宅に関わる総合的な相談に応じ、サービスが適切に利用できるように適正な居宅介護支援サービスを提供している。

主な業務内容は次のとおりである。

- ①要介護・要支援認定等の申請について、申請の代行業務を行う。
- ②介護保険の説明、介護保険サービス利用についての相談等に応じる。
- ③利用者・家族の意向を聞いて介護サービス計画書の作成、担当者会議の開催、介護サービス事業所との連携を図り、サービスが適切に行えているか利用状況の把握を行う。
- ④毎月利用者の自宅を訪問し、利用者・その家族と会って毎月モニタリングを行う。
- ⑤必要に応じて介護サービス計画書の変更、必要なサービスの調整を行う。
- ⑥愛媛県、四国中央市で開催される研修会、勉強会、講演会等に参加し、介護支援専門員としての資質向上に努める。

居宅介護支援事業については、豊岡台病院において行ってきたが、スタッフの確保が困難となり、2021年12月より休止せざるを得ない状況にある。

(8) その他必要な事業

国立学校法人愛媛大学への寄付について

今年度も、寄付の目的「脳と心の医学」の研究のために、2021年5月17日に100万円の寄付を実行した。

3. 当法人の職員の状況は次のとおりである。(2022年3月31日現在)

(人)

	財団新居浜	豊岡台	学校	計
医師	6	4		10
非常勤医師	5	7		12
看護師	97	31		128
教員			12	12
准看護師	34	21		55
看護補助者	25	16		41
作業療法士	7	4		11
精神保健福祉士	7	3		10
薬剤師	4	3		7
管理栄養士、栄養士	7	2		9
臨床心理士、心理士	3	2		5
臨床検査技師	3	1		4
診療放射線技師	1	1		2
理学療法士		2		2
調理作業員	23	8		31
事務職員	23	12	3	38
その他		2		2
計	245	119	15	379

(法人事務局は、財団新居浜病院に含む)

(前年より28人減)

以上